

フォレストニュース

植林が地球を救う

令和2年(2020)9月10日

No. 153

発行 高津啓洋

次々とラパッチョ咲く



レダでは7月8月を盛りに、ラパッチョが咲きます。初めに桃色ラパッチョ、あとで白色ラパッチョや、9月に入ると一斉に黄色ラパッチョが咲きます。黄色いラパッチョはブラジルの国花と言われるほどに、ブラジル中が黄色く彩られるほどです。(ちなみに、パラグアイの



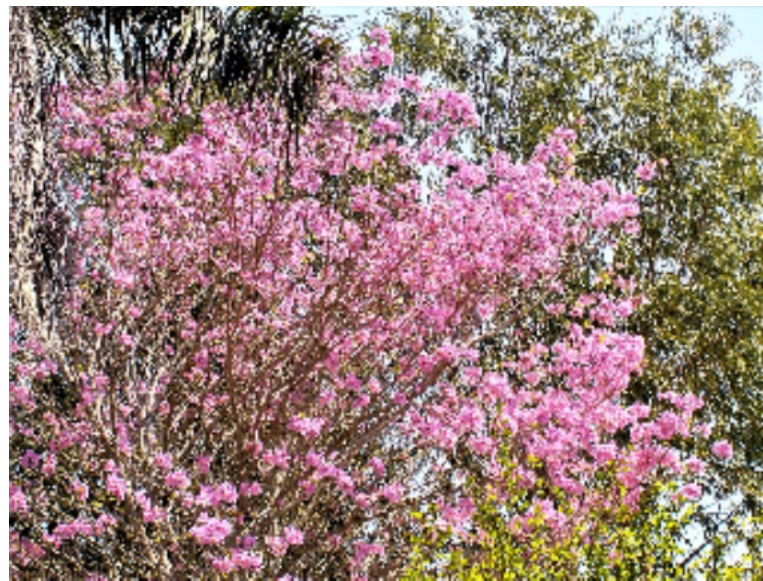
国花はトケイソウです)

春はどの花もうれしい便りとなります。レダには多くの

の方から、植樹支援をしていただき、ラパッチョもたくさん植えられています。



レダの植樹を支えているのが、現地従業員パブローレさん達による水やり、雑草刈り取り等、様々な作業です。皆様の支援が現地植樹育成にとって大切な役割を果たしています。心から感謝いたします。
(現地駐在員 事務局長・伊達 記)



セミナーは11月21日

新型コロナウイルスのためにセミナーが11月21日となりました。

日時：11月21日(土)

1部 10:00受付、10:15開始。

2部 12:30受付、12:45開始、16:00終了。

国立オリンピック記念青少年総合センター：センター棟

参加ご希望の方はご連絡ください。

フォレストレター

2020年9月10日

●ラッパチョが咲きました

レダも次々とラパッチョが咲きました。日系人の方達は特に桃色ラパッチョを南米桜として懐かしくまた、楽しんでいきます。

少しラパッチョについて調べたことを書きます。

●薬にもなっています

ラパッチョは、スペイン語です。お隣のブラジルでは、ポルトガル語でイペーと言います。種類としては「ノウゼンカズラ科」です。ブラジルでは黄色のイペーを国花として知られています。（ですがこれらを国花とする法案が1950年代にブラジルの国会に提出されたましたが結局成立しなかったそうです。）

このうち、紫（桃色）ラパッチョはタヒボ茶として広く飲まれています。南米アマゾン川流域に自生するラッパチョは、熱帯雨林の湿



気の中でも害虫や病気に感染しないほど強い樹皮を持ち、強風にも倒れない強靱な根を持つ大木です。

インカやアマゾンの先住民たちは、「神からの恵み」として、ラパッチョの内部樹皮を煎じたお茶を飲用してきました。（日本でもサプリメント「タヒボ茶」として沢山販売されています。そこでは、「紫イペ・タヒボ茶」癌・難病に効くと言われています。一方では使い方によって副作用もあると報告されているようです。）

●用材としても活用されます

ラパッチョは、木材としてもよく使われています。彫刻や建設用の材料として利用されており、最近は違法伐採とかで個体数が減少しています。



日本においても、木材を「イペ」という名称で利用されています。耐腐食性が高く、建築用材、フローリング、船舶の甲板材などを主な用途とされています。

（年輪や杓目に乏しく、南方材らしく密に詰まった材質をしている。色は薄褐色から暗色の帯のものまでかなり幅広く、辺材は黄白色である。腐りにくい反面加工しづらく、ドリルで穴あけしないとビス打ちも困難なほど硬い。水につけても腐りにくいが、乾燥すると割れたり狂いが出やすい。シロアリや湿気に強く、水に沈むハードウッドである。木材建築物の基礎、ウッドデッキ、フローリングなどに使用されています。ウイキペディアから）

●花は日本の各地にも

沖縄には、ブラジル移民の方が種を持ち帰り広まったといわれています。それから、日本各地でも花を咲かせるようになってきました。温かい地方の沖縄、宮崎、寒い地方の仙台のお寺でも丹精込めて育てられ黄花が咲きましたと河北新報に掲載されています。上の写真3枚はレダ、下はアスンシオン

